

# 立志

志をもち  
自ら学び  
ともに高め合い  
逞しく生き抜く



令和5年5月17日(水)発行 校長 川崎 朗

## 「有中魂、最高のフィナーレ」全員で実現させよう!

現在、有明中学校では5月21日(日)に行われる本校第59回体育大会に向けて毎日練習が行われており、学校内に生徒の元気な声が響き渡り、大いに活気が感じられます。

体育大会に向けては5月8日(月)に結団式を開催して準備が本格的に始まりました。結団式では、紅軍、青軍の両団の団長、副団長、リーダー、ソーラン長、団旗長、装飾長に任命書を渡し、両団団長が本番に向けての思いや決意を語ってくれました。本年度の団長は紅軍が岩石あさなさん、青軍が坂下琥迫さんが務めてくれています。両団共に団長を中心にして毎日の練習を一生懸命に頑張ってくれており、本番が大いに楽しみです。



本年度の体育大会のスローガンは「**有中魂 最高のフィナーレ**」です。これには、有中62年間の最後となる体育大会で先輩方が築いてきた伝統の上に今年の生徒の思いをのせ、最高のフィナーレを飾りたいという思いが込められています。この実現のためには、本番で精一杯頑張り、素晴らしい結果を残すことはもちろん大切です。しかし、それ以上に本番までの練習や準備の中で、一人一人の思いや体育大会に込められた願いをみんなが大切にそしてそこに近づいていくことがかけがえのないものになります。



私は、結団式の時に全校生徒に一つお願いをしました。それは「**全員が楽しかった、または、やってよかったと思う体育大会にしてください**」ということです。



全校生徒の中には、体育大会が楽しみだという人もたくさんいると思います。しかし、逆に楽しみではない、不安だと思っている人もいるはずで、また、走ったり運動をしたりすることが好きだ・得意だという人もいるだろうし、逆に嫌いだ・苦手だという人もいると思います。このように、いろいろな思いや考えを持っている人がいることをみんなが理解したうえで、体育大会に取り組んでほしいと思っています。

誰かが100%満足するけれど、誰かは全部我慢しなければいけないというのでは全員が楽しかったと思える体育大会にはなりません。「走るのは得意ではないけど体育大会は、まあ楽しかったな」と思えるように、みんなが周りのことを考えながら、どうすればみんなが楽しかった、やってよかったと思えるようになるのか、ぜひ考えて行動してください。

キーワードは「感謝と思いやり」です。生徒一人一人が私からの宿題に対する自分なりの答えを見つけてくれることを楽しみにしています。

<写真は結団式の様子です。上から団長の挨拶、紅軍の円陣、青軍の声出し>

## 「有中魂」＝有中生の一生懸命に会いたい!

体育大会のスローガンにもありますが、よく本校では「有中魂」という言葉が使われます。これまでの有明中学校の歴史の中で大切にされてきた「有中魂」とはどのようなものでしょうか？私はこれまで有明中学校に6年間勤務してきましたが、その中で出会った有中生が大切にしてくだものは、何事に対しても一生懸命に取り組むところだと思っています。

**体育大会や文化発表会などの学校行事、生徒会での様々な取り組み、日々の授業や部活動などそれぞれの場面で生徒一人一人が一生懸命に取り組む姿を目の当たりにしてきてこれこそが「有中魂」だと思ってきました。**

ですから、私は生徒との関わりの中で、いつも「生徒の一生懸命に会いたい」と思って学校生活を送ってきました。物事に対して一生懸命に取り組むというのは、一人一人の心構えや気持ちであって目に見えるものではない、一生懸命かどうかは本人しかわからないだろうと思っている人もいるかもしれませんが、一生懸命にやっている姿は、その人の目つきや声の出し方、行動や雰囲気など、いろいろなところで外に出るものです。

見ている私たちは、結果としての勝敗、良し悪しに感動しているわけではありません。生徒の皆さんの一生懸命さを見たり感じたりしたときに心が震えて感動しているのです。

今週末の体育大会でも、私たちはもちろん、たくさんの保護者や地域の皆様が生徒のみなさんの一生懸命に会いたくて学校に来られます。今年は、久しぶりに制限なしで保護者や来賓の方をお迎えしていますし、有中最後の体育大会でもあり、有明中生徒の一生懸命に頑張る姿を目に焼き付けに来られるのだと思っています。

**「さすが有中生！」**と思ってもらえるように、一つ一つの競技を一生懸命に頑張ることはもちろん、開会式から閉会式まですべての目つき、声、動きのなかで見ている人に感動を与えられるように頑張っていて取り組んでほしいと思っています。

それは体育大会本番だけで出せるものではありません。青軍、紅軍両団が三冠（総合優勝、応援優勝、パネル優勝）という目標を目指して取り組んでいるその過程のすべてから参加している生徒のみなさんの一生懸命さが自然に出てくるものです。応援合戦、有中ソーラン、各競技、開会式、閉会式、そのすべてに取り組む生徒のみなさんの一人一人から有中魂は見ることも、感じることもできます。

ソーランの最初の「構え」の声に合わせた一糸乱れぬ構えへの動き、その時の生徒の真剣な眼差し、その後三味線の前奏、これだけで見ている人の心は震えます。

各団の応援合戦の真剣な表情、心から出される声、舞やダンスなどの一つ一つが見ている人を感動させます。各競技で一生懸命に走るなど競技に取り組む姿から生徒の一生懸命を感じるのです。開会式での実行委員会の「はい」という声、団長の選手宣誓、今年から始まった「みのりちゃん体操」、準備体操にいくときに基準の返事、手の上げ方、体操の隊形への開き方などなど、みなさんの一つ一つの動きから皆さんの思いが感じられます。

頑張る時は精一杯頑張り、楽しむときは思いっきり楽しむことが大切です。**体育大会で生徒のみなさんの一生懸命に会いたい!**すべての人がそう思って会場に来られます。そのためにも、残り少なくなった練習、そして本番、生徒一人一人が自分の心に有中魂をもち、一生懸命に取り組んでくれることを楽しみにしています。

(写真は昨年度の体育大会の有中ソーランのようす)

